

【自分をみがき、もっとかがやこう】

私が六年間で一番変わって、一番成長できたと思うことは人との関わり方です。

私は一から五年の時は、同級生とは話しても、他の学年の人や学校に来るお客さんに進んで話すことが苦手で、同級生を通して話すことは多くても、掃除の時に指示をしたり、朝会などで発表したりすることも、自分から進んでしたいとは思いませんでした。

でも、六年生になって、一番上の学年だから、しっかりしないといけないと思ってがんばると、そうじの指示や朝会の発表も、いやいやすることはなくなりました。そして、二十分休みなどに、一年生と遊ぶことも増えて、そうじの時に、五年生に相談したり、指示をすることも多くなって、学校に来るお客さんにあいさつしたり、場所を教えたりした後に、話をしたり教えたりして良かったと思えるようになったことが、私の六年間で一番成長したことだと感じました。

そして、人と関わると、自分が得るものは大きいし、感じることも大きいということが知れたので、これからも今以上にあいさつや仲間の関係、自分から進んでチャレンジすることや人との関わりを大切にしたいと思いました。

校長より：表面の作文は「みなみっ子No.27」に記載した内容です。

この前は、Ｙちゃんはものごとを客観的にとらえ主体性が育ってきたと書きました。道徳的な視点で考えると自分自身を振り返り、自分を見つめ未来の自分を磨こうと努力する姿がうかがえます。

小学生も高学年になると、Yちゃんの様に社会適応能力も徐々に育ち、先祖代々引きつがれ、潜在意識が事あるごとに表に表れてきます。

さて、道德の時間は、来年度から「**特別の教科 道德**」となり教科書を使って学ぶことになり、当然、評価をすることになります。本校は道德教育の先進校として、今年度から皆様のご存じの通り、通知票で評価しました。評価を見てどう思いましたか。

「特別の教科 道徳」となっても、今までの授業時数は同じで、6年生は、入学してから卒業するまでに210時間以上の道徳の学習をします。主な学習内容は「A：自分自身に関すること」「B：人との関わりに関すること」「C：集団や社会とのかかわり」「D：生命や自

家庭版「心のノート」

1

I 自分自身とのかかわり

自分をみがき、もつとかがやこう

子どもと一緒に考えたり、話し合ったり、
調べたりしたことを書き込んでいきましよう。
子どもたち自身が書いてもいいよ。

高知COCORON

自分の健康は
自分で守ろう

●好き嫌がなく食べる。
●外から帰ったらうがい、
手洗いをする。

自分で身の回りを
きれいにしよう

●身の回りの整理整頓を
する。
●自分で掃除をする。

自分で上手に
時間を使おう

●早く起きをする。
●時間を決めて、勉強や
遊びをする。

自分から進んで学習し
よう、体をきたえよう

●予習や復習をする。
●外に出て、力いっぱい
遊ぶ。

高知の道徳 P 36

ほかにも、どんなことがあるだろう。

然、崇高なものに関すること」の4つの視点に分かれています。

これまでの道徳の授業展開は、読み物資料の「登場人物の心情理解に偏った形式的な授業」でしたが、これからは問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ「多面的・多角的に考え、議論する道徳」の授業へ改善していくようになります。

話は変わりますが、小学校時代に「人格」の土台が築かれると言われていています。ですから、人（子どもづくり）の責任は子どもを取り巻く私達大人に大きく関わってきます。

子ども達を見ていて「知・徳・体」の面でもっと頑張ってもらいたいと思う子がいますが、直ぐにできるようにはいきません。しかし、昨日できなかった子どもが、今日はできるようになったり、去年の夏休みの宿題をいっぱい忘れていた子が、今年は夏休み終了までに提出することができたり、声をかけ続けていたらいつかできるようになる子どもがたくさんいます。『できなかったことができるようになる。』オーバーですが私にとっては奇跡です。子どもは奇跡を起こしてくれます。「教育には特効薬はない」という県教育長のことばがあります。その通りだと思います。私たちは日々、子ども達を深く観察し、良さを発見し熱い想いで接し、マネジメントしていくしか方法が見つかりません。全校児童、211人の人格形成を目指し、大きな夢を持って取り組んで行かなければなりません。

アインシュタイン：「常識とは、18歳までに身につけた偏見のコレクションのことをいう」という名言もあります。18歳（小・中・高時代）までが、人（子ども）づくりの重要時期です。学校・家庭・地域が、目的を共有して子育てに取り組んでいきましょう。